

IT・エレクトロニクス 技術戦略シンポジウム2011 ー震災復興後のR&Dの在り方ー

■主催：技術戦略委員会

■担当部署：知的基盤部

■参加者数：70名

概 要

我が国のIT・エレクトロニクス産業は、為替の変動など経済成長の不安定要素に加えて、東日本大震災により、エネルギー政策をはじめとしたあらゆる政策の見直しも迫られており、企業活動は極めて厳しい状況です。

こうした厳しい環境の中において、優れた日本独自の先端技術は、その技術的・経済的発展性に対する期待も大きく、我が国の科学技術の資産を戦略的に活用していくことが求められています。

今回のシンポジウムは、我が国の第一線で活躍している研究者から、それぞれの研究テーマをご紹介いただき、今後の研究開発の在り方について探っていくこととして開催しました。

最初に、当シンポジウムを企画した技術戦略委員会を代表して、須藤委員長（(株)東芝 執行役専務）から、開催のご挨拶並びに、昨年度当該委員会にて調査検討して取り纏めた「イノベーション立国」を実現するIT・エレクトロニクス産業の競争力復活に向けて一技術戦略の視点からの提言一について、配布とともに、概要の紹介がありました。

講演では、最初に経済産業省 商務情報政策局情報通信機器課の内山課長補佐より、東日本大震災・タイ洪水の影響、国家プロジェクトを含めた今後の研究開発の在り方、及び産業構造の在り方についてご講演いただきました。

九州大学 安浦先生からは、今後の研究開発は、「何ができるか」ではなく「社会が何を求めているか」の視点の転換が必要であること、開発途上国では既存インフラ不在で、現地ニーズに従った先端科学技術開発が実現できるといった大変興味深いご講演をいただきました。東京大学 荒川先生からは、現在「最先端研究開発支援プログラム」として実施されているフォトニクス・エレクトロニクスの融合システム開発について、世界最先端の研究開発のご講演をいただきました。

矢野和男氏（(株)日立製作所）からは、センサ技術を使って人間や社会を計測、例えば積極的な会話や人間行動により上司との距離（情報伝達）などを分析することによって、会社の健全性（＝収益性）を図るといった、ユニークな研究のご紹介をいただきました。

最後に、NTTデータ経営研究所の環境エネルギー関連技術として今話題になっているエネルギーハーベスティングの研究開発の動向、及び震災後に顕在化したニーズについてご紹介いただき、最後に技術戦略委員会の堤監事（三菱電機(株) 常務執行役開発本部長）から総評として、講師の皆様に対するお礼の言葉と、技術力をさらに進歩させると共にこの技術を産業として発展させていくことが我々にとって急務であるとのお言葉をいただきました。

JEITAでは、今後も産業界発展に向けた有益な業界活動を実施していきたいと考えておりますので、企業の皆様の積極的なご提案・ご要望を賜りましたら幸いです。

プログラム

司会 (社)電子情報技術産業協会 技術政策委員会委員 中田登志之 氏 (日本電気(株) 中央研究所)

○開会の挨拶

(社)電子情報技術産業協会 技術戦略委員会 委員長 須藤 亮 氏 ((株)東芝 執行役専務)

○「震災後のR&D政策の在り方について」

経済産業省 商務情報政策局情報通信機器課課長補佐 内山弘行 氏

○「社会情報基盤の再構築へ向けて ― 社会主導型研究開発への転換 ―」

九州大学 理事・副学長 安浦寛人 氏

○「フォトニクス・エレクトロニクスの融合システム開発と今後のR&Dの在り方」

東京大学 生産技術研究所 教授 荒川泰彦 氏

○「センサ技術が拓く人間情報技術とビジネス」

矢野和男 氏 ((株)日立製作所 中央研究所 主管研究長)

○「エネルギーハーベスティング研究開発の動向と今後のR&Dの在り方」

竹内敬治 氏 ((株)NTTデータ経営研究所 社会・環境戦略コンサルティング本部シニアスペシャリスト)

○総評

(社)電子情報技術産業協会 技術戦略委員会監事 堤 和彦 氏 (三菱電機(株) 常務執行役開発本部長)

